報道関係者各位　　2023 年 9 月 20 日

“避難所 100 年の盲点”を解決する 災害時用寝袋兼敷物
「危機管理産業展（RISCON TOKYO）2023」に初登場

扉を開けて約 2.5 分。体育館（約 500 ㎡）を 120 人分の避難所に“整え”ます。

防災敷物企画・開発の「ほっと。松本」（石川県七尾市）は、関東大震災以来一世紀変わっていない“避難所の盲点”に着目。折り紙を応用し、敷くだけでゾーニングまで完了する、災害時用寝袋兼敷物「おまもりぶくろ®」を、危機管理をテーマにした国内最大級の総合トレードショー「危機管理産業展(RISCON TOKYO)2023」（＠東京ビッグサイト 10/11～13）にて発表。受注生産を開始します。
2005 年の初開催以来、19 回目の開催となる同展でも初出展の商品となります。

◆避難所の光景は、一世紀変わっていない。◆

コロナ禍は避難所の光景を変えたと思われていますが、実はそうではありません。整然と並ぶダンボールベッドやテント、それらは前もって設えられたもの。とっさの避難時に繰り返されるのはこれまでと同じ、避難者にとって極めて不都合な状態です。しかも令和以降、異常気象が常態化。ますます「想定外の避難」が増えています。どれだけ優秀な防災用品が登場しても、“避難者が入った後で”なんとかしよう／できるは無理。関東大震災以来、一世紀変わらぬ、未だ気づかれぬ“盲点”を解決したいと開発しました。

敷物にも寝袋にもなる「おまもりぶくろ®」

◆「おまもりぶくろ」®の 7 つの特長◆（詳細は添付資料②へ）

- スピード：体育館一面（約 500 ㎡）120 人分敷くのに僅か 2.5 分
- 手軽さ：子供～大人まで誰でも簡単、広げるだけ。
  自治体職員の手を借りなくてもそこにいる人で対応可
- コンパクト（省スペース）：
  専用台車 1 台で 180 人分。ブルーシート（敷布）や毛布（上掛け）と同じく、コンパクトに施設内に備蓄できます。
- ゾーニング：敷き込み完了＝通路確保とゾーニングも完了。
  人数把握と名簿作成が容易になります。
- 災害弱者対策：敷くと同時に、女性専用／高齢者／
  障害のある方専用のゾーンを設けられます。
- 広さ：一区画 1.62 畳（2.64 ㎡）。「スフィア基準」の 75％を確保
- 保温性・クッション性：
  厚さ 4mm のクッション入りで下からの冷気を軽減。

“助かった命”を助けたい

「ほっと。松本」代表
松本　隆

熊本地震の二次避難所に畳を届けた時、一人のおばあちゃんが固い廊下に座っていました。“陣取り合戦”になりがちな避難所は、災害弱者にやさしい場所ではありません。また既に大勢が入ってしまってからでは、畳やベッドを入れようとしてもうまくいかないことを痛感。省スペースで備蓄ができ、誰でもすぐに敷ける、人に配慮した防災敷物を、日本全国に届けたい。

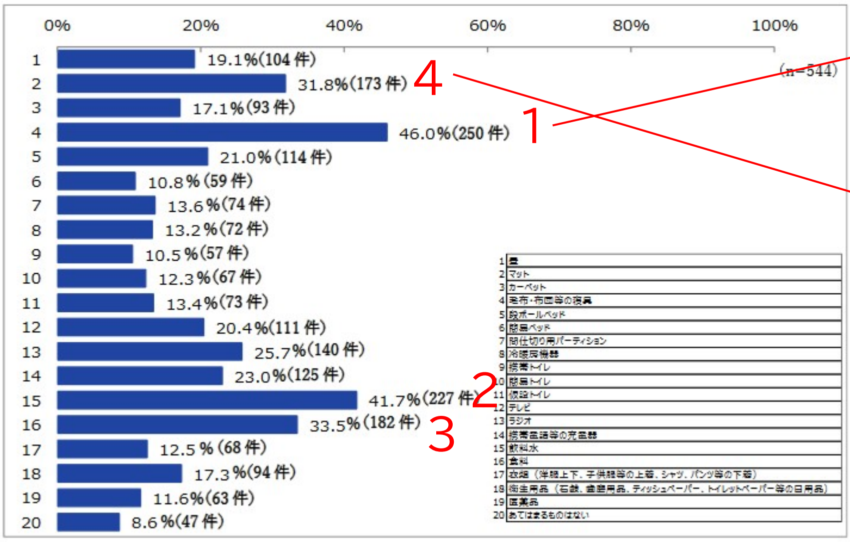
◆お問い合わせ◆　「ほっと。松本」　代表・松本隆
電話 0767-52-2616　携帯電話 080-6366-6836　〒926-0027　石川県七尾市後畠町チ部 17 番地 4
Mail：hot-matsumoto@wing.ocn.ne.jp　　HP：https://hot-matsumoto.com

◇1 世紀変わらぬ避難所の盲点◇

←関東大震災時の「砂町小学校内避難民収容状況」
1923 年撮影　東京都公文書館所蔵

↑阪神・淡路大震災時の避難所／写真提供：神戸市

◇避難所に最も求めるものは「毛布・布団等の寝具」◇



1 番目：毛布・布団等の寝具（46.0%）
2 番目：飲料水（41.7%）
3 番目：食料（33.5%）
4 番目：マット（31.8%）

「避難所の役割についての調査検討報告書」（令和元年、内閣府（防災担当））「Q　避難所に滞在中に役に立ったもの（複数回答）」より

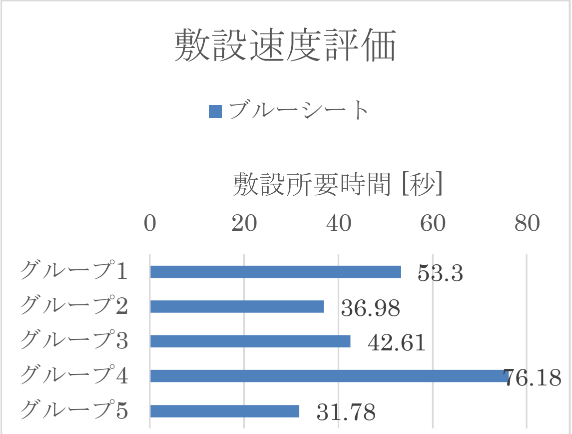
◇一日当たりの関連死の発生割合／1 週間が最多◇

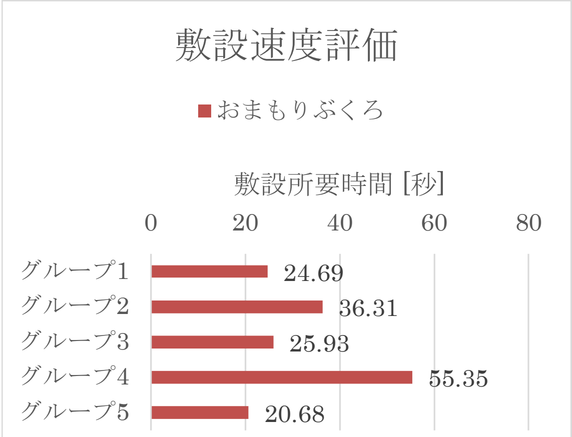
本グラフは、出典元様の意向により、
Web上では非開示とさせて頂きます。

［参考：「スフィア基準」とは］

被災者の権利と被災者支援の最低基準を定めた国際基準。基本指標には「避難所、またはその周辺に、日常的な活動を営むための適切な居住スペースを有する人の割合」があり、その中に「1 人あたり最低 3.5 ㎡の居住スペース」と記されています。

◇敷き込みスピード比較／ブルーシート平均 48.17 秒、当商品平均 32.592 秒◇





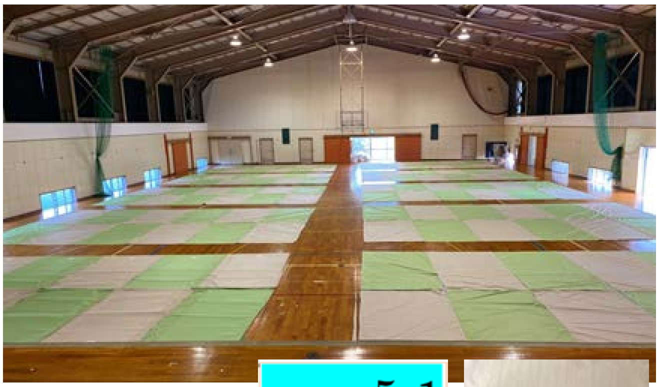
スピード比較

試験実施日：2023 年 8 月 30 日　試験場所：崎山地区コミュニティーセンター（約 500 ㎡）　試験対象者：9 名
タイマーによる実測（敷設開始から所定位置への敷設完了まで）石川県工業試験場指導の下、「ほっと。松本」にて実施。

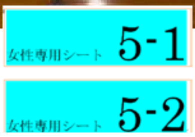
◇コンパクトな備蓄面積◇

専用台車一台で 180 人分積載可能

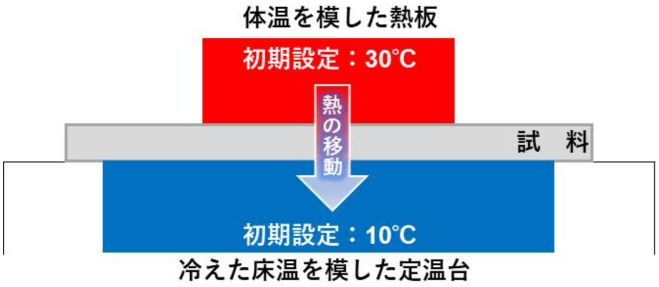
◇敷くだけでゾーニングまで完了◇

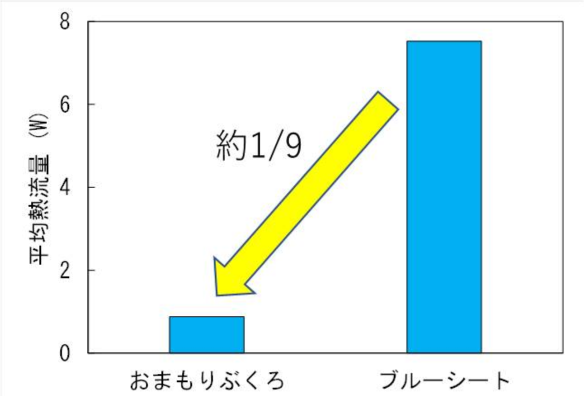


指定シール使用例



◇暖かさを維持するのに必要なエネルギーは、ブルーシートの約 1/9◇





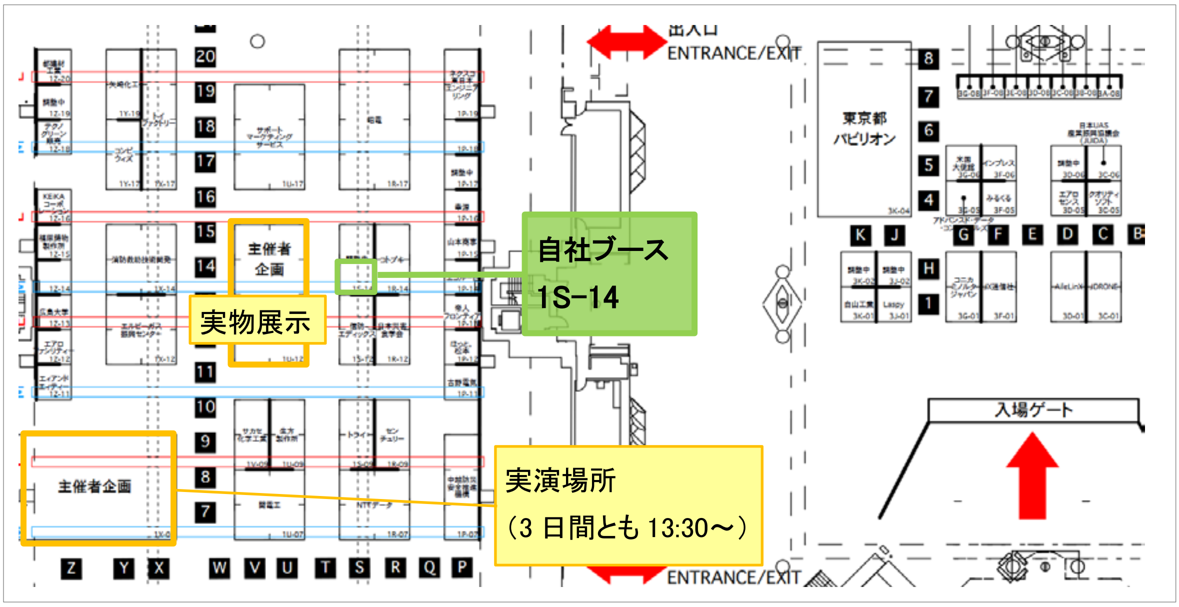
サーモラボによる平均熱流量測定の様子（上）と測定結果（右）から、「おまもりぶくろ」を介した熱の流れやすさは、ブルーシートの約 1/9 となりました。

【測定：石川県工業試験場】　　　※測定条件→

定常熱伝導率試験		
測定機器	風合い評価システム（カトーテック㈱製 KES-F7）	
条件	定温台温度 [℃]	BT 温度 [℃]
	10	30

◇「危機管理産業展(RISCON TOKYO)2023」出展・実演場所◇

東京ビッグサイト西 1・2 ホール



◇「おまもりぶくろ®」スペック表◇

【本体】

サイズ	幅 64cm×長さ 120cm×厚み 27cm（納品時） 幅 4.4m×長さ 7.2cm×厚み 5mm（使用時）
重量	本体 9kg（納品時・段ボール込み 11kg）
素材	表／ポリエステル、裏／同、シルバー加工
カラー	黄緑×ベージュ
加工	撥水加工有り、防炎・防汚・防水無し
受注単位	1 個から
価格	18 万円（税抜）
注記	訓練、短期使用は繰り返し使用可

【間仕切り（オプション）】

サイズ	幅 91cm×長さ 180cm×厚み 4.4cm（納品時） 幅 91cm×長さ 7.2m×厚み 4mm（使用時）
重量	9kg（1 セット 11 枚入り）
素材	プラスチック段ボール
カラー	青
加工	防炎・防汚・防水無し
価格	3 万円（税抜）
受注単位	本体共で 1 セット〜

（間仕切りセット例）

「ほっと。松本」代表
松本隆のプロフィール

1958 年 1 月 1 日石川県七尾市生まれ。
県立七尾工業高校機械科を経て家業の(有)松本製畳入社。
以来 47 年間、畳と向き合う。
防災士。金沢匠の技能士（金沢市認定）

2015 年　避難所備蓄品収納 BOX の実用新案を取得、開発に着手
2016 年　熊本地震の避難所に畳を届け、避難所の盲点を確信する
2019 年　「ほっと。松本」設立
災害時用寝袋兼敷物の開発に着手
2021 年　いしかわ中小企業チャレンジ支援ファンドに採択
2022 年　災害時用寝袋兼敷物の特許出願
「おまもりぶくろ」商標出願
2023 年　「おまもりぶくろ」商標登録